横浜市立城郷小学校
明治 33 年６月創立

学校だより

令和５年２月２７日
３　月　号

めざす子ども像

ともに学び、よりよい生き方を見つけ出す　しろさとっ子

◆学校だよりはホームページにも掲載されています。右の QR コードからもご覧になれます◆

巣立ち

校長　三瓶　淳

この冬は、日本列島に何度か寒波が襲来し、寒さ厳しい日が長く続きました。しかし、２月末となり、背中に当たる日差しに春の暖かさを確かに感じる頃となりました。そのような中、２月上旬には入学説明会、先週は卒業を祝う会が保護者を招いて行なわれました。３年に渡ったコロナ禍もようやく収束の光が見え始め、本校では先週より給食時の黙食を解除しました。６年生にとっては、我慢を強いられた３年間です。残された小学校生活を少しでも制限されることのない環境で過ごし、それぞれの進学先へ巣立って行って欲しいものです。

私も担任や学年主任を務めてきた中で、数多くの卒業生を送り出してきました。このシーズンになると過去の卒業式や卒業生が思い浮かびます。その中でも何人か忘れられない中学校の卒業生がいます。

ある中学校のＫ君は、小学校時代から中学校の先輩と付き合いがあったり、６年生までにありとあらゆる悪さをしでかして警察にお世話になったりしたことで、地域でも有名な子でした。入学式当日、変形制服に金髪、自転車に乗って一人でやってくるほどでした。そんな彼でしたが、入学すると学校では１年生の仲間と一緒に過ごし、先輩たちとは一切交わらないばかりか、授業妨害をする先輩たちに「邪魔するな。」と一喝することもありました。校外では相変わらずの素行でしたが、「情」が通じる子だったため職員からもかわいがられていました。しかし、学習面では、周囲に追い付けず（自分の名前や住所も漢字で書くのがあやしい）、次第に授業をさぼるようになりました。それからは、先輩たちと別室で１日を過ごすことが増えてしまい、２年生が終わる頃には、学年の仲間とも疎遠になりました。

ところが、３年生に進級したとたん、授業に出始め、補習まで依頼するようになったのです。ノートをとり、発言し、授業の準備や後片付けも手伝い、まさに別人のようでした。ただ、すぐに成績に表れるものでもなく、１学期の連絡票（成績表）をもらった時点で学習することを諦めてしまうのではないかと心配しましたが、決意は固く２学期も努力を続けました。進路を決める頃には、公立高校を受検できるレベルになっていました。そこまでたどり着くには彼自身の相当なる努力があり、その姿に職員側が教えられるものもありました。いつしか３年職員ばかりでなく、校長をはじめ、学校をあげて応援していました。しかし、現実は厳しく、前期日程は不合格。失望した彼は学校に姿を見せず、「先生方、今まで本当にありがとうございました。学校へはもう行きません。」と落胆しきった内容のメールが、担任へ届きました。その頃は、後期日程で受検することも可能だったので、担任が電話で受検するよう説得しましたが、無反応でした。出願〆切の前日に、学年主任だった私は『あなたは、私が教えた中でも最高の教え子。私の夢は、あなたがここで終わるのではなく、最後まで挑戦し、ゴールすることだよ。』と伝えました。彼は後期を受検し、そして見事に合格！卒業式でも感謝のメッセージを伝えることが出来ました。

私は、「巣立ち」をとても大切にしています。人生の大きな節目であるばかりでなく、感謝をもって夢に向かう旅立ちと感じるからです。未知の世界に飛び立つためには温かな巣が必要です。その巣が、家庭であり、学校であり、地域である城郷小学校９２名の卒業生。自分のよさを最大限に発揮し、次なるステージへ大きく羽ばたいて行ってください。